

大学・教育委員会・学校の連携

デマンドサイドのニーズに応じた現場体験実習

教育学部初等教育学科 黒崎東洋郎、小川孝司、松岡律、紙田路子、
笹山健作、山下浩之、井本美穂

Keywords : デマンドサイド、アクションリサーチ、探究課題

1 研究の目的

教員養成では、「理論と実践の架橋、往還、融合」、(コルトハーヘン、2010) が重要とされている。そこで、教育学部では、入学当初からデマンドサイドの視点に立って教員養成を行い、即戦力として活躍できる有能な教員養成を行うことを目的としている。

2 研究の方法

(1) デマンドサイドの視点に立って、小学校教育の特徴、教師の仕事、子どもの発達特性等を主体的にアクションリサーチできるように教育委員会、学校と連携協力して岡山市内の公立5小学校(伊島、津島、御野、鹿田、牧石)で現場観察実習を実施する。

(2) 現場観察実習は、春期と秋期の2回、異なる公立小学校で行い、客観的な知見を得やすい意義ある経験を持つことができるようにする。

3 研究の内容

(1) アクションリサーチによる観察

教員養成における課題は、学校現場や地域のニーズに応じたデマンドサイドの教員養成が行われていない点である。地域社会から信頼される学校づくりの担い手になる初任期教員の資質・能力を有する優れた人材を育成することが求められている。本現場体験実習では、学生自らが、主体的に自分の五感を働かせて小学校教育の特徴、小学校教員に求められる資質・能力、子どもの発達特性等をアクションリサーチし、自己課題を発見させるようにする。

(2) 真実観に基づくALACTモデルの実施

初等教育学科では、春期の現場体験実習を秋期現場観察実習へ連動させて実施している。

春期：事前指導—観察実習—事後指導 → 終期：事前指導—観察実習—事後指導

春期事後指導の協働的な省察を生かして、秋期の現場観察実習の自己課題やアクションリサーチの質を高めることで、小学校教員になるための理論研究にも身が入ってくるものと期待している。

4 成果と課題

現場観察実習を通して、「教員志望度が一層増した(75%)」「教員希望ではなかったけれども、小学校教員になりたい(3%)」という変容がみられ、入学当初から教員養成もアクティブラーニングによって学ぶことの有効性を確認することができた。課題として、学校現場観察実習を充実するための事前指導の在り方を工夫・改善する必要があることが明らかになった。